

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 玉川大学

1 事業の趣旨・目的

本事業は、地域で活動するボランティアの方を対象に地域（や学校）における日本語教育支援が抱える問題点を共有し、その解決策を探る糸口となるような情報（講義・ワークショップ）を提供することを目的としている。具体的には、定住外国人親世代・子世代・家庭の抱える問題点、指導法や教室運営法等地域日本語支援に益する情報を理論・実践両面から提供する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月12日	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、永井	企画（カリキュラム、講師、日程、会場）の検討	企画（テーマ、カリキュラム、講師、日程、会場）の検討と調整、
1月17日	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、永井	講座開講にあたって	講座運営に関する打ち合わせ、スケジュール、広報活動等に関する確認
3月9日	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、永井	講座の終了に際して	本年度講座の成果及び課題、次年度の計画に関する話し合い

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

定住外国人親子に対する 日本語指導者養成講座

(2) 養成講座の目標

現在地域の日本語教育現場の抱える問題を共有するとともに、地域の日本語教室で活用できる実践的な教授方法・クラス運営方法の向上をはかる。

(3) 受講者の総数 20 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(4) 開催時間数(回数) 20.5 時間 (5 回)

(5) 参加対象者の要件

- ・現在地域の日本語ボランティアとして活動されている方
- ・今後地域の日本語ボランティアとして活動することを希望されている方

(6) 受講者の募集方法

- ・玉川大学ホームページへの情報掲載
- ・近隣地域の日本語教室運営団体等への募集チラシ配布

(7) 研修会場 玉川大学9号館

(8) 使用した教材・リソース

- ・講師陣によるオリジナルテキスト
- ・『こどもにほんご宝島』、『移動する子どもたち』『クラスメイトは外国人』等の市販図書

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
1月29日 12:50～14:20 14:30～17:00	テーマ:日本語をおしえるということ／①講義:日本語の特質,②ワークショップ:日本語の教え方基礎編	①玉川大学准教授 永井悦子 ②玉川大学非常勤講師 荒巻朋子	13名
2月5日 12:50～14:20 14:30～17:00	テーマ:子どものための日本語教育(1)／①講義:異文化理解について,②ワークショップ:授業に結びつく日本語指導法	①フェリス女学院大学非常勤講師 清水基久 ②東京学芸大学准教授 菅原雅枝	16名
2月12日 12:50～14:50 15:00～17:00	テーマ:子どものための日本語教育(2)／①ワークショップ:サバイバル期の児童の指導法,②ワークショッ	①早稲田大学専任講師 尾関史 ②玉川大学非常勤講師 宮田聖子	16名

	プ：自作教材作成法		
2月26日 12:50～14:50 15:00～17:00	テーマ：定住外国寺院 家庭のための日本語 教育／①講義：日本語 ボランティアの課題、 ②講義：定住外国人児 童生徒の学習・進路上 の問題	①東京国際大学専任講 師 杉本篤史 ②日本語ボランティア団 体代表 井草まさ子	9名
3月5日 12:50～14:20 14:30～17:00 17:00～17:30	テーマ：定住外国人父 母のための日本語教 育／①講義：定住外国 人母親の抱える問題 とその解決策、②ワー クショップ：親子教室 の運営法、③講座のま とめ	①日本語ボランティア団 体代表 芳賀洋子 ②日本語ボランティア団 体代表 高柳なな枝 ③玉川大学准教授 永井悦子	14名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

「講義」「ワークショップ」「企画運営」に関し、聞き取り及び記述式のアンケートを行った。以下は抜粋したものだが、概ね満足を得られる結果であったことがうかがえる。

- ・実際に現場でどのようなことが起きているのか、またそれをどのように解決しようとしているかなど、実践的な話が聞けてよかった。
- ・毎回切り口が違って、興味深い話がきけた。
- ・講師の先生や他の団体でボランティアをしている方と知り合えるなど、ネットワークがひろがった。
- ・土曜の午後は、自分の所属している団体の活動が入ることが多いので、スケジュールがあわない回があり、残念であった。

現段階ではアンケートが返送されていない方もいる。今後も、受講生の方とのつながりを保ちながら、様々な意見をうかがっていきたいと考えている。

② 実施主体からの研修内容結果評価

本年度は、昨年度の受講生の声をふまえ、ボランティア団体の運営方法の講義や教材作成など実践的な内容をより多く取り入れた。実践経験を豊富に持つ方を講師に招くこととなり日程調整に苦心し、年明けから開催することとなったが、受講生の満

足度にはつながったと思われる。

受講生の声にもあるように、今年度は、近隣地域団体の行事日程と重なることが多く、全て出席された方の数が少なかった。今後は、さらに近隣地域との連携を深め、配慮を行っていく必要がある。

受講生の顔ぶれをみると、今後地域で活動を行いたいというボランティア初心者も見られた。こうした方に向けたカリキュラムなどを提供する必要も感じられた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・近隣地域にある NPO と共同の学習会(指導法や教材に関する情報交換)
- ・現在行っている近隣地域 NPO 等地域日本語支援団体の活動への本学学生の参加・交流活動の継続・発展

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

多摩市国際交流センター、留学生職業開発センター等 NPO 団体への学生ボランティア、講師等の派遣、企画運営案の提供。

② 研修後の人材活用

所属する団体でのリーダー的存在、さらには他団体とのパイプ役として活動してくれるものとする。

(12) 今後の課題

昨年の成果や課題をふまえ、本年度は定住外国人の母親の抱える問題や進路指導の問題などをテーマとして取り入れた。今後も地域の支援現場のニーズをくみ取り、地域に益する企画を提供していく必要があると考える。